

微

涼

図版②「殿閣生微涼」



# 「落ち穂拾い記」

いちぎょうしょ

## ④「殿閣生微涼」の一行書

きたじませつざん

北島雪山

17世紀（江戸時代）

月に数回、上野の博物館を見学してから、藝大の方に向かい、言問通りから根津に下り、本郷の東農学部前を経て、後楽園、神保町と散歩がてらに好く歩いてきた。多いときには、週1回くらいの頃もあつが、最近は、年数回に減った。本郷には、神保町ほどではないが、古書店がある。都バスの「農学部前」の古典籍を扱われている柏林社へは、よく通った。当主のご主人には、学生の頃から晩年まで色々ご教授を頂き、またいろいろなものを譲っていただきだ。ここに示した小さい一行ものの单聯も、その一のようないいがする。署名も落款も無く、相当の虫食いを丁寧に直して表具してある。本

来は対聯であったろうか。瑞々しく伸びやかで大胆な書で、いい雰囲気だと感じ求めた。作者は不明であった。ただ巻止めに「雪山聯左」の小さな筆書きがあった。いつの頃か、古本の書道雑誌の『墨美』を見ていて、「雪山特集号」（No.118 昭和37年刊）に似たのがあるように思い、100円で購入した。調べて驚いた。この单聯が、そのまま29頁に掲載されている。東京・古野喬一氏蔵とあった。不思議な縁である。落款は無いが、古くから北島雪山（1636-1697、江戸時代前期の書家・陽明学者。黄檗僧などから文徵明の書法を学び、唐様の書風の基礎を築いた。）の書とされてきたようである。この单聯は、「殿

閣 微涼を生<sup>す</sup>」と読み、もとは唐の文宗皇帝の「人皆苦炎熱、我愛夏日長」の句に続けて、あの書家として名高い柳公權が「薰風自南來、殿閣生微涼」と唱和した句の後半であることが判明した。夏らしいので「微涼」の2字を大きく示した。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。

木鶴室・伊藤滋

# 書道芸術院 平成の群像 (2016)



木 村 東 舟

## 今、思つ」と

恩師である下谷東雲先生との出会いは高校生の時でした。現在の師である洋子先生のお父様です。授業はもちろん部活動も書道を選択し、3年間おもに古筆の臨書に明け暮れました。

書道芸術院主催の全国学生書道展や群馬県展など展覧会にも出品し、度々の入賞が私を書の道へと進むきっかけになったように思います。東雲先生は、平成7年に他界

されてしまいましたが、後は洋子先生にご指導をいただき現在に至っております。

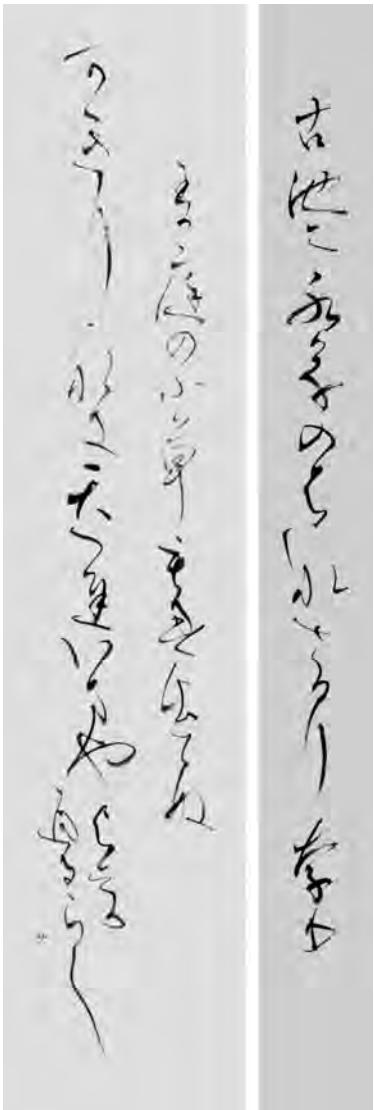
最近、「言葉を書く」と言うことを強く思うようになりました。季節感を考え、書きたいと思う和歌や俳句を選び、どのような構成にするか、静かで繊細なものにするか。あるいは大胆に動きのあるものにするか、行書きか、散らしにするか……悩みます。次に、筆の動きによる表情の変化を考え、デフォルメした漢字やかな、変体がなを巧くバランスさせ、リズムや線へと意識を拡げていくわけですが、これまでは、ただ自由に作品化することが、当たり前のこと

うに思っていました。

書道展の会場で、かな作品は読めない、読みにくいとよく耳にします。作品に対することが優先のため、変体がなも複雑なもので華（山場）にしたり、墨継ぎも歌の意味より格好のつく位置に置いたりと、言葉の意味を考え掘り下げることは、あまりして来なかつたように思います。書は言葉を表現する芸術であり文化です。言葉から書を考えた時、歌意をどう表わすか、かなり難題です。

私は、時々趣味の俳句を作品にしております。句の内容を損ねないように、なるべく変体がなの使用を少なめにと心掛けています。伝統としてのかな変体がなの扱いが、これから大きな課題かも知れません。

私の所属する書泉会においても、「親しめる書」「わかりやすさの中でのかな表現」等を、書展のテーマとして会員一同研究をしています。



# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 恩地先生お別れの会 大阪で開催

さる6月14日、87歳でご逝去された本院顧問恩地春洋先生のお別れの会が左記の通り決定した。

(公財)書道芸術院(理事長辻元大雲)、(一財)毎日書道会(理事長朝比奈豊)と玄遠社(顧問小伏竹村)の3団体が世話を務める。7月12日毎日新聞紙上ほかで発表、全国の書道関係者にご案内を差し上げた。会員諸氏におかれましてはご多忙とは存じますがご臨席賜りますようお願い申し上げます。

・日時 平成28年8月28日(日)

午後1時30分～3時

・会場 大阪 天王寺 都ホテル  
〒545-0053 大阪市阿倍野区

TEL 06-6662-8122-00

・会費 5000円

・供花、供物などはお断り、平服にて都合により参加できない方でお別れのお気持ちを頂ける方は、ご本人または所属会員ご一同様名義にて書道芸術院事務局までお寄せください。院で取りまとめてお別れの会にお届けし、献花ご芳名帳に記帳させていただきます。

・郵便振替口座

□座名 公益財団法人書道芸術院

□座番号 001800-4-296927  
(お近くの郵便局から 送料各自負担)  
・お問い合わせは院事務局まで。

第68回毎日書道展観賞2氏に  
飯沼恵鳳(近詩) 千葉華紅(前詩)  
表彰式、祝賀会盛会に

6月29日に行われた会員賞選考会議にて、本院より表記2氏が受賞された。どちらも東北総局宮城県であった。

また全作品対象の文部科学大臣賞には独立書人団の仲川恭司氏が栄誉に輝いた。

7月17日午後、東京芝公園のザ・プリンスタワー東京のコンベンションホールに2000名を超す受賞者、関係者が集い大盛況、夕刻5時半からは本院主催の出品者懇親祝賀会が200名余の参加者で大いに盛り上がった。

- ・会員賞受賞者席上揮毫

前期7月9日に近代詩文書部代表と

して本院飯沼恵鳳氏が今回展受賞作品と同じ内容で揮毫。大いに気を吐いた。  
・東京展は7月7日～31日まで国立新美術館、7月16日～23日東京都美術館にて開催された。



下谷常務理事による  
ギャラリートーク

・「今こそ臨書」企画展示

いる。

玉松会12人書展・書泉会展・みちのくの書人達展 盛会に

・玉松会12人書展 39回目開催、来年の40回の節目を迎える。永井幸子先生の遺志を継ぎ、関東のかなの一翼を担う。毎日展観員以上と院審査会員を有資格者として12名による展覧。残念ながら黒川江偉子顧問は5月にご逝去され遺作展示となつた。会員の山下薰さんが個展コーナーを担当され、かな作品のほか漢字・刻字作品と多彩に発表され充実。(銀座かねまつホール)

・第31回書泉会展 群馬前橋を拠点としながら隔年に東京会場にて開催されていて、1、2階全面に多彩なかな

作品が展開され充実。わかりやすさの中でのかな表現をテーマに会員各自が

それぞれの目標に向かって臨書から倣書、創作へと発展させていく。中でも

「かな手鏡」として各種古筆臨書小品を手鏡として帖仕立てされたものが目

を引いた。  
・みちのくの書人達展 1年おきに隔年開催している「みちのくの書人達展」は今回4回目を迎えます意気軒昂である。会場のアートサロン毎日正面に代表の坂本素雪先生作が余白を活かした繊細な作風で魅力を發揮している。会員はみちのくの名通り、青森、宮城など東北地方で活躍しているメンバーである。詩文書作品中心の現代感覚溢れる展示で盛況。

## 単位認定大分講習会

8月20～21日、大分県別府市にて開催される本院恒例の単位認定講習会は

参加者が例年よりやや出足が悪かったがほぼ予定の受講者が集まり主管の牧泰壽九州支局長もほっと一安心、皆さんのおいでをお待ち申し上げている。  
講習内容は例年通りで実技は書写を含め6科目、一般教養2科目となって

# 現代詩文書 (五)

## 畠 中 弄 石

### 自分の言葉で

現代詩文書に籍を置く私たちは当たり前のこととして、詩人の作品を素材として書に表現しています。毎日書道展では近代詩文書として、さらに盛んに田中冬二や谷川俊太郎や山頭火などの有名な作品を素材にして展覧会に発表しています。(毎日展では著作権によって著作料が要る場合があります。)



「小糠雨に煙る磨崖の瑠璃不動」

畠中弄石書

「小糠雨に煙る磨崖の  
瑠璃不動」

ある時、親しい詩人から  
「あなたたち書家はもっと語  
彙力を身につけないと」と言  
われたことを忘れない。

詩や歌・俳句などの美しい  
言葉ができるだけ探し、記録  
して、いわゆる詩歌を涉獵し、  
して語彙力の向上に努め、で  
きるだけ自分の言葉で作品を  
創る試みを幾度か行っ  
ています。

今回の作品は京都の  
淨瑠璃寺を散策に出掛けた時に、その周辺に  
磨崖仏が幾つかあります。  
の一つが霧雨に濡れて  
印象的な瑠璃不動だったです。ただ見た情  
景を素直に詠んだだけ  
の言葉です。書表現に  
し易いように漢字を多く使いました。

# 21世紀の書

## —私の主張—

## 漢字 (五)

## 稻垣小燕

### ・大字書におけるツール・墨と紙

ここでは大字書作品において  
作品の良否を大きく左右する墨  
と紙の相関について考察しよう  
と思います。

大字書作品には墨色の美しさ  
と滲みのおもしろさをだすのに  
青墨がよく用いられる。そこで  
松煙墨つまり青墨を用いる。そこで  
④磨つてすぐに水で薄めた  
もの

⑤磨つて半日位おいて水で  
薄めたもの

の二種を使い、紙は①和画仙・  
②羅紋箋・③紅星牌の三種類に  
どのように違いが表われてくる  
か検証してみるとした。

①和画仙は紙質には粘りがあり

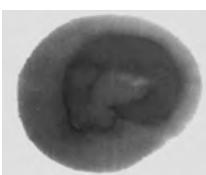
②羅紋箋は中国の紙の中でもよく使われる。③は細かく繊細である。従つて④は滲みが広がり、墨色が冴える。⑤はより線が際立つて滲みも非常に美しい。

④は墨色はしつかりと出るが滲みはやや少なく⑤は滲みが見事に広がり墨色は奥深い色となる。

以上は、ほんの一部の実例にすぎませんが墨も紙も時間の経過、日々の条件(湿度、気温等々)により表われてくるものは異なる。書き手による筆圧、速度、筆の種類によっても悉く違つて同じものにはなりません。

墨も紙も生きものです。生きがいけない変化が紙の上に表されたときには、自分がピタッとでいた時作品は及第点を得ます。しかし、それ以上に思いもつかない変化が紙の上に表されたときには、「作品が生まれる」という言葉を実感するのです。

和画仙

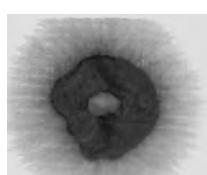
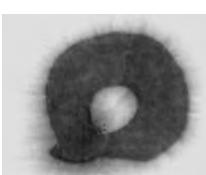


Ⓐ



Ⓑ

羅紋箋



红星牌



## 平成28年度 新審査会員作品

II

角井寿子（漢）・高安翔琴（漢）・秋山之扇（現）・大野清玉（現）



筒井寿子  
(高知)

「情」

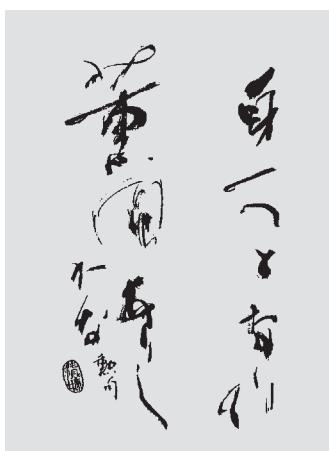
この度は思いがけない審査会員に昇格させて頂き、感激しております。



秋山之扇  
(宮城)

「梅の花の咲き始める頃」より

この度は、審査会員にご推挙いただきありがとうございました。20数年間、阿部翠麗先生のもとで書友達と楽しい時を重ねて参りました。これからも書を楽しみつつ、少しでも前進していくたいと思っております。(之扇)



大野清玉  
(岡山)

「身一つとなりて  
薰風ありしかな」

勲句

人生には、いつなんどき身一つとなるような事が起こるかわかららない。それでも確實に時は過ぎ、季節は巡っていく。  
書ができる「今」を大切に感謝の気持ちを忘れず、精一杯前を向いて突き進んで参ります。

小竹石雲先生、諸先生方、書友の皆様に心より感謝申し上げます。(清玉)



高安翔琴  
(大阪)

「終始一貫」

書道を通して、流れさせず、乗り越えていく楽しさを教えていただきました。  
さらに、色々な壁を乗り越えていけるよう、しっかりと自己を見つめ、地に足を着け、書の道を貫いてまいりたいと存じます。(翔琴)



薦季直表（魏・鍾繇）②

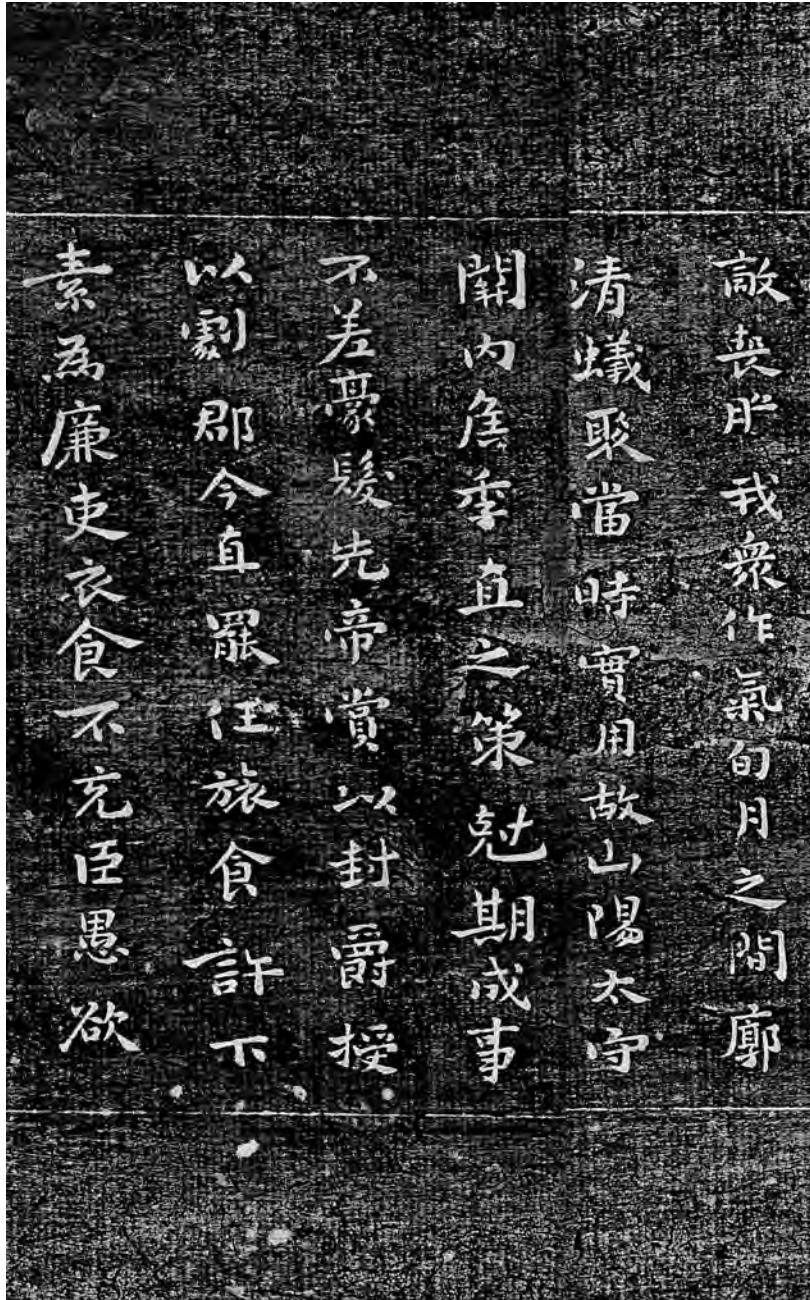
## 漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。



真賞斎帖より (87%縮小)

（解説）  
薦季直表は、前回の漢字研究部課題の「皇甫誕碑」（歐陽詢）などの初唐の楷書とは特徴が異なる。薦季直表の字形は、おおむね扁平で、懷が広い。隸意を帯び、やや行書的な用筆も見られる。また、丸みを帯び、温かみが感じられる古意豊かな線質に特色がある。気脈を貫通させ、ゆったりとした運筆を心がけることが大切である。

(編集部)

\*落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみ可）

〈よみ〉そでひちてむすびしみづのこぼれる  
をはるがたけふのかぜやとくらむ

だいしらす

よみびとしらす

者するがすみたゝるやいづこみよしの  
よしのゝやまにゆきはふりつゝ

## かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）  
別紙を裁断して貼付も可。半紙絞は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

## 特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可。

## 解説

高野切第一種はいずれも、白麻紙に雲母砂子が一面に散りばめられた清楚で、奥ゆかしい料紙に書かれている。

高野切第一種はこの美麗な料紙の上に淡々とした筆運びで書かれ、気品に富む優麗典雅な情緒を醸し出している。線は緩急抑揚の変化に富み、温雅にして筆力があり、字形は端正で優美。そして連綿の巧妙さ、墨繼ぎの自然の美しさが際立っている。平安時代の古筆の中でもっとも格調の高い美しさを示す優品として尊重されている。

高野切第一種と同筆の古筆遺品に、「云藤原行成筆」「大字和漢明詠集」、「伝宗尊親王筆深窓秘抄」などがある。

（五島美術館蔵）

習い方解説 (五)

半田 藤 扇

松竹水聲涼  
(松竹水声涼し)

青い松に翠の竹、水の声はとり  
わけ涼しい。

今月も、5文字の表現です。創  
作するにあたって、まず字書を活  
用して下さい。

さわやかに表現することをベー  
スに配字しました。筆管の上部を  
持ち運筆すると運腕が大きくなり、  
必然と余白が眼の中に入ってきま  
す。一貫した流れを大切に、余裕  
を持った運筆に心がけてみましょ  
う！

今回の手本は細い羊毛筆を使用  
しました。ポイントとしては、縦  
線の表現に注意してみましょう。

松竹水聲涼 よみ（松竹水声涼し）

書体＝自由



習い方解説(五)

竹本龍汀

沈李浮瓜

(文帝)

水に李をしづめ瓜を浮べること  
で消夏のことについて語る。

暑期林間でのキャンプ、小川で  
李（すもも）や瓜を冷やす。夏の  
暑さ、ふっくら滑らかな真桑瓜の  
肌合いから顔真卿の書風をイメー  
ジした。

手本は、顔真卿の晩年に近く顔  
法の完成された顔勤礼碑によった。

顔法は結構法が向勢で蚕頭燕尾  
(起筆が蚕の頭のように丸く右払  
いの收筆が燕の尾のような形)が  
特徴といわれる。点画が太く雄大  
重厚で楷書の用筆に藏峰(穂先を  
包み込む)を取り入れている。



沈李浮瓜 よみ(沈李浮瓜)

書体=楷書

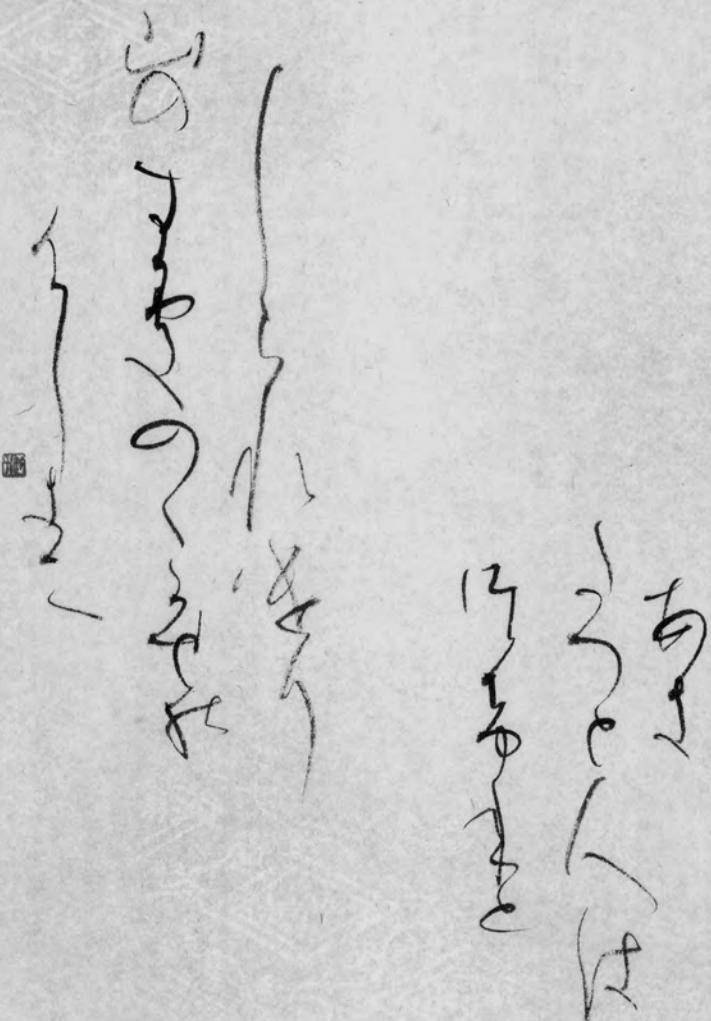
習い方解説 (五)

下谷洋子

かなたつと人は告げねど知られけり  
山のすそ野の風のけしきに

(山家集)

かなは画数が少ないので、集まって美しさを出すため流麗です。流れのばかりでは単調なので、切るや間も大切にします。余白と呼んで、文字の書かれていない部分に意味を持たせたりもします。



今は画数が少ないので、集まって美しさを出すため流麗です。流れのばかりでは単調なので、切るや間も大切にします。余白と呼んで、文字の書かれていない部分に意味を持たせたりもします。今回は、古くは寸松庵色紙に見られる上下に分けた散らしで、構成による間を見てみましょう。まず、上下の集団は関わりを持っていることが解りますか? 前半の行頭が揃っていないことも上部の空間に動きを与える。やや長い後半の行は微妙に右に引くことで、これも前半の集団に働きかける(この時、傾きすぎると不自然になる)。余った白(間)は、あいまいな広さとなり、余白として生きてくる。書かれてない部分が規則的になり、同じ面積では美しくない。

余白と散らしの関係は、アンバラ

よみ方

秋(あき)た(多)つと人は告(徒)げ(希)ね(年)ど知(し)られけ(遣)り  
山のすそ(處)野(の)の(ハ)風(可)せ(の)能(能)け(介)しき(支)に(一)

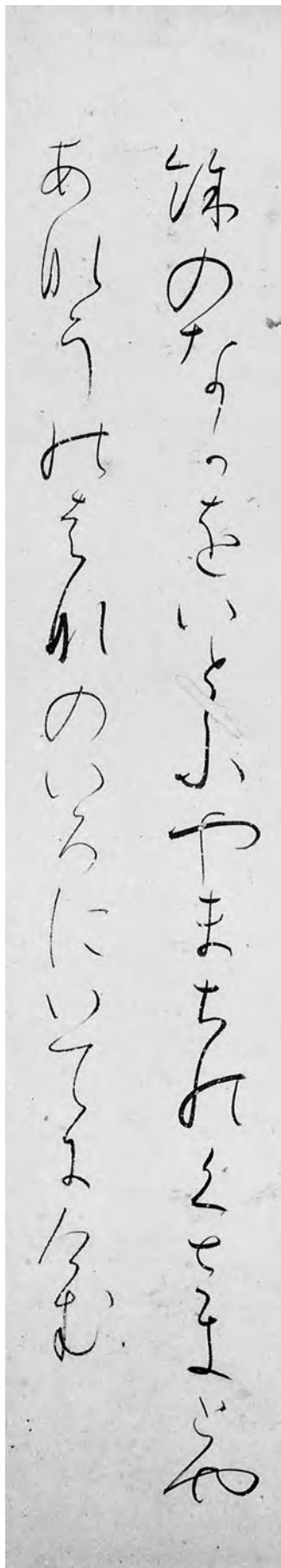
創作

かな規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)

よみ方 よ(餘)のなか(可)をいとふやまちの(能)く(久)さき(支)とや  
あな(那)うの(能)は(者)な(那)のいろにいでに(尔)け(介)む



かな条幅規定【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

庄司紅邨選書

### 習い方解説 (二)

庄 司 紅 郡

あは  
雨晴れて  
よく照りたるこの  
月夜  
また更にして  
雲なたなびき

(万葉集・大伴家持)

雨上りの澄んだ夜空に美しく照  
てる月をイメージして書きまし  
た。かな作品の漢字の選択は苦し  
みもあり、また楽しみでもあり  
ます。

2行目の「月夜」の墨量を工夫  
して表現して下さい。

よみ方 雨は(者)れ(禮)てきよ(與)く(久)照りた(多)る(類)この(能)月夜  
ま(万)た(堂)さらに(一)して(天)雲な(余)た(多)な(那)び(日)き(起)

創作



漢字条幅規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯田春香選書

## 習い方解説 (五)

飯田春香



書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

尾形澄神選書

## 習い方解説 (五)

尾形澄神

山の風光は我が心を清らかに澄ませる、の意。「石門頌」のよ  
うな伸びやかな線を求めました。  
用筆は穂先が筆画の外に表れない  
蔵峰が主体。筆先で紙を食むつも  
りで、ゆっくり運筆してください。

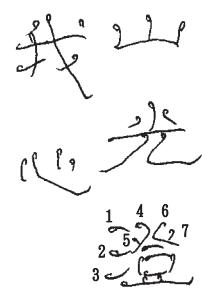


書体=自由

\*たて形式に限る

老松の窓のあたりに涼風が、竹垣の彼方に月が落ちてゆく夜、秋のわびしさが身にしみる詩です。菅原道真が詠んだ七言律詩の中の一部です。

今は画数の多い字と少ない字がバランス良くとれた詩句。字形の変化をつけ疎密に留意して書きましょう。



1 4 6  
5 2 7  
3 2 1

習い方解説 (五)

広瀬舟雲

イマジン  
やあイメージしてがらん  
心の中で想い描いてみて  
どうし国境線なんか  
存在しないい地球の姿を、  
新井満自由訳 舟雲かく

用紙＝はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと ※ボールペン・万年筆使用可 書体＝自由

※落款を必ず入れること  
（自分の名前を入れること）  
事件が多発し、苛立たしく感じます。  
今回は、一見、サインペンのようですが、  
が、ペン先に弾力があり、太細がつけ  
易い新開発のペンで書いてみました。  
筆タッチとも記されています。落款には、  
訳者名と書者の署名を必ず入れて下さい。

※落款を必ず入れること  
（自分の名前を入れること）

今月の

# ホープ作品

## 各部総評

No. 662

ペン字部 師範 坂井 初江

粘り強い線質が全体のリズムとなり、緊張感を醸している。美しい字形、巧みな連綿見事です。

◎ペン字部総評 行書・かな連綿作品が多く見られた。さらに、連綿の基礎基本を学んで下さい。（紅瑠評）

夏は夜・月の、うつはやう  
なう。やくもすは・愛の多く飛びちがひたる、またたゞ  
うつうなど・ほのかにうち  
光りて行くもとかく。  
枕草子 初江かく

漢字条幅部 師範 熊谷 株華  
柔らかな筆致が暢びやかな雰囲気を醸し出し、リズム感溢れる作。確かな技術に裏打ちされた作。

◎漢字条幅部総評 書体書風自由で様々な表現が可能。普段からの基礎学習、古典臨書の原点を忘れぬようにしたい。（大雪評）

現代詩文書部 特選 藤田 雅章

軽やかな運筆で大胆に余白を取り、それをみごとに活かして余韻がある。文字の表情も魅力的。

◎現代詩文書部総評 意欲的な作品が多く、半紙作品としての質的向上を見る。（弄石評）



かな条幅部 師範 鍋島 弘子  
慎み深い作品です。強い線の程よい動きがつくる余白が絶妙で、雅印とのマッチも最良の佳作です。



◎かな条幅部総評 字の大小のアントラランス、墨量変化の乏しい作が目立った。句意を理解し雰囲気に合うよう制作のこと。（明子評）



前衛書部 特選 本田 美雪

墨部と白地の対比関係が秀逸な作品。右下に下げて結んだ意図を飛沫がビシリと決めて完了良し。

◎前衛書部総評 全般的に圧倒された。上達する秘訣の手間を掛けるがこちらに伝わりました。（慧香評）

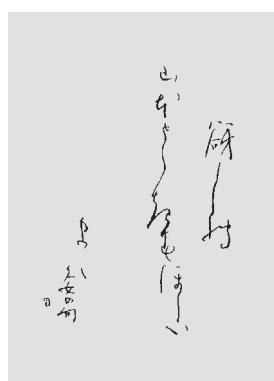


かな部 師範 小川 春彩  
流れと間が巧く調和し、行のリズムが悠々と鮮やかで群を抜く。斜・曲・横・直が競合したのが惜しい。下位の方は線が細すぎて貧弱か誤字、よく検討されたい。（洋子評）



漢字部 師範 富永 清子  
筆法が素直で暢びやか。線が澄み爽快な草書。字形も端正で安定感があり品性の高さが窺える作。

◎漢字部総評 上級は草書の字形に不正確なものが多く見られた。落款の署名不調和なものの一考を要す。画龍点睛を欠く。（萬城評）



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

前衛書 (台原)

吉田恵也



吉田恵也書

「希望という名の光」

151×43cm

- ◆何より墨色が美しい。青淡墨の大胆な潤渴の変化が豪快さと躍動感を生み出している快作。
- ◆淡墨の潤渴を活かし、動きあるリズミカルな作。墨の潤りがやや気になるが、さらに研究工夫を。
- (大雲評)



平野笛舟臨

70×138cm

「粘葉本和漢朗詠集」

部分拡大

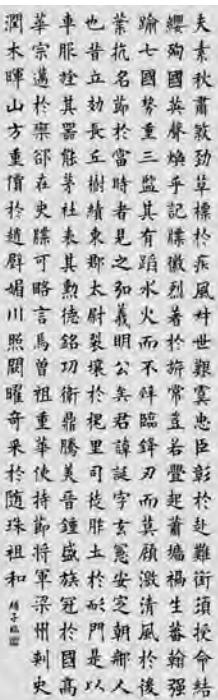
臨書 (千葉) 平野笛舟



- ◆清らかな澄んだ線を落款まで気引き締めた作に感服。行間の広狭も程よく紙面を収めた。
- (多希子評)

- ◆料紙を数種貼りついで爽やかな展開を見せており。漢字とかなのバランスも調和よく丁寧な臨書作。
- (大雲評)

- ◆丁寧に根気良く書かれた臨書作品。最後まで呼吸乱れず一貫性はある姿勢は素晴らしい。(鄭街評)
- ◆澄みきった上品な漢字と端正優美なかなの特徴をよく捉え、美しい料紙とあいまって清澄さあふれる作品となつた。
- (紅瑠評)



東平絹子臨

173×55cm

臨書 (森地) 東平絹子 「皇甫誕碑」



- ◆やや拡大の中字による的確な臨書作。一糸乱れぬ呼吸の一貫性は、技術の安定と緊張感を醸し出して妙。
- (大雲評)

- ◆一貫した緊張感で200文字余りを最後まで一気に書き上げた。皇甫誕碑の特徴をよく捉え秀作。
- (鄭街評)

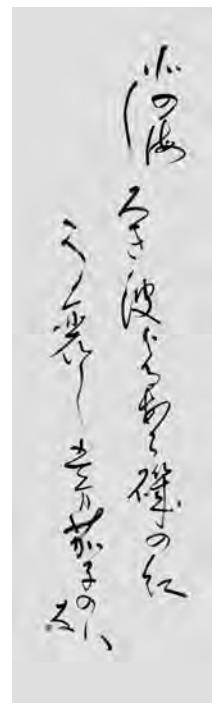
- ◆欧法の特徴をよく捉え、丁寧に最後まで集中した臨書態度すばらしい。線にさらに切れ味がほしい。
- (紅瑠評)

- ◆皇甫誕碑2尺×6尺に的確な臨書。多字数を最後まで乱れない緊張感を保った姿勢を賞賛したい。
- (多希子評)

- ◆墨色美しく上部の固まりから一気に下部へ、重すぎず收める。爽やかな、心地良い作品になつた。
- (鄭街評)

- ◆上から下へ淡墨が清涼感を醸し心地良い。滲みから破筆、引き締った終筆にドラマ性を感じる。
- (多希子評)

かな (書泉会) 西卷 サト子 「北のうみ」



180×53cm

西卷 サト子 書

◆ 2尺×6尺に歌一首。紙面を圧倒する重厚な線と、躍动感溢れる氣迫のこもるおおらかな作品。

(多希子評)

◆ 運腕大きく、ダイナミックに1首を書き下ろして妙。やや濃い目の青墨が筆線を際立たせている。

(大雲評)

◆ 懐の広い字形をおおらかな運筆で、全体に明るく爽やかな作品に仕上がった。さらに墨色の変化がほしい。

(紅瑠評)

臨書 江本興舟



136×68cm

江本興舟臨

「皇甫誕碑」



136×68cm

◆ 日頃の古典の研鑽が形とつなげて表われた。大胆に思い切り良い姿勢が切れ味の良い作品となつた。

(鄭街評)

◆ ひきしまった原碑の特長をよく捉えて緊張感ある臨書作。掛け線も効果的に真面目な姿勢を買つう。

(大雲評)

◆ 原帖をよく観察し、特徴を理解した忠実な臨書作。日頃の鍛錬のたまもの。さらに、始まりにスッキリとした鋭さがほしい。

(紅瑠評)

現代詩文書 (八戸) 市川紫泉



58×177cm

市川紫泉 書

◆ 短歌一首を余白の効果をねらって横展開する。太細の変化が紙面に動きを醸し出し印象的な作。

(大雲評)

◆ 前半の大胆な余白と後半の集中がマッチした作品。疎密の妙が心地良くなじら紙面を制圧している。

(鄭街評)

◆ 大胆な1文字ごとのデフォルメと、太細の組み合わせに魅了される作。変化に富む構成も巧妙。

(多希子評)

◆ 文字造形に工夫を凝らし、余白を活かした斬新な構成。巧みな筆さばきから生まれたりズムが心地よい。

(紅瑠評)

「河野裕子の歌」

創作の部 (53点)	漢字 - 5点
かな - 17点	漢字 - 1点
現代 - 6点	漢字 - 24点
前衛 - 1点	漢字 - 31点
篆刻 - 1点	漢字 - 25点

総出品点数	84点
〈特選候補者〉	

〔漢字〕	〔漢字〕
〔前衛〕	〔現代詩〕
玉州 角張	奥田 小林 純風
大抽 鳥中	卯月 新谷 嶺泉
秀水 坂井	大雲 阿部 藤象
青蓮 佐々木	大雲 小川 白舟
〔臨書の部〕	書游 庄司 惠泉
〔漢字〕	〔漢字〕
〔篆刻〕	〔篆刻〕
千葉 竹浪	〔篆刻〕
八街 石橋	〔篆刻〕
英峰 佐藤	〔篆刻〕
若葉 工藤	〔篆刻〕
白珠 紗秀	〔篆刻〕
〔篆刻〕	〔篆刻〕
成山 芳蘭	〔篆刻〕
成山 初江	〔篆刻〕
桂香 叙舟	〔篆刻〕
洋龍	〔篆刻〕
大雲 神谷	〔篆刻〕
雲卿	〔篆刻〕

漢字研究部  
(皇甫誕碑)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



岩上郁子

皇甫誕碑の特徴である直線的で背勢という結体をよく理解して表現できている。線質は響きのある引きしまった線で鍛度の高い作品です。書に対する取り組みの真剣な姿勢が窺え気力が伝わってきます。

◎漢字研究部総評

臨書に際しては、筆を執る前にしっかり原本を観察して特徴をつかむことが最も大事な

ことです。今回、誤字も多く見受けられました。注意深く臨書する姿勢を日頃から身に付けてほしいと思います。

一字一字において長短・太細・バランスなどしっかり把握し、なおかつ筆の毛質、紙の風合い、墨の濃淡など、より適切なものを用いることが上達への道筋だと思います。



永弦美久淳蘭  
簞佳和子泉花

白真春麻英清  
雲子景里子次

良蒼麻惠叙美  
子舟矢子孝子

藤明日麗由美子  
漣流美佐子

かな研究部  
(粘葉本和漢朗詠集)

選評 松村くに子

今月のホープ作品

下 津 裕 美

## ◎かな研究部総評

正確に字形をとらえ、墨色の潤渴も見事です。その上、自然に流れる連綿線も美しく、端正で気品あふれる粘葉本の特徴を格調高く表現できました。

かな研究部成績表

炎幸みよ子秀泉

清光玉  
耀彩江

利美良  
子雪江

百合子生泉

高や八日文菊も 真ま戸新月く	A 高正澄 奥清上 蘭生 こ千澄 竹木倉 大千 高詢 蕉蓮 葩若う竜雲 I 井華 春田 月泉 鼎大 こ葉 春屬 曜吉 雲葉 崎属 紅布 松る 泉雀	特選
岩伊市石石新青 上東川橋井木作	藤梗 柴深 小大塚川 北加菊齋 山壠 中礎 飯松 鈴本 行菅 飯後 下村 田田澤林 和本崎 又藤地 藤村 江江 貝田浦 木田 平沢 高藤澤 田ち み 日	
郁京紫嘉澄惠康子 子泉子水子漣	(60音圖) 昌和 洋佳純絃 優春翠 泰義幸 純よ清光玉利 美良合幹 良裕 子子月風江子子峠陽峰香秀泉子耀彩江子書江子生泉美	
玉松佳	明秀 東幸高 竜生 大紅千椿 前た玉玉 高高玉大や惹 八京蒼 清大千大若玉 A 誠秀 漢韻伯 扇局 泉大雲 風葉翠橋か松川崎陵川雲ま書街橋陽月阪葉雲葉松 I 和明	
青木作	吉 吉山山矢森牧堀 平平春浜橋野根丹中積田坂斎近込 小小河高工小生鶴岩 田川本口田野切田山山野本中津羽澤田玉本藤山林林野武藤川方澤崎 千 万か 美 由	
葵郷	鶴幸 真梅登 龍清幸里 彩つ勝 永紅喜飛恵 雅哲里桂松美嘉萩恵玄山彩美琴洋 子惠紀香江博次雲子華子美夏麗子龍子縁雲子美子春艸江江子城房香舟子舟子	

昌や椿蘭五梓宗調こ如石千前竹正蘭麗紅遊一竜澄紅土高大や高汐正英竹塙樹正苑た澄證竜花岩有や附松  
入苑ま翠鼎葉江苑布だ月習葉橋扇華鼎澤風雲宮泉春瑤氣崎雲ま崎風華峰扇韻原華書か春和泉舞沼秋ま中春村  
新天浅藍會吉山安森森望茂武宮三松松別船東林長西西鶴土高須杉神鷺齋小久木吉河加葛加小梅宇入今伊石石飯阿青青  
井羽川澤木田口鶴田月木藤川嶋本丸重府津田谷田澤田谷橋田宮山藤峰保原瀬岡納瀬野津田谷村藤崎川井田部木木  
多み眞翠律砂直睦桂絢蕙洋敏泰愛翠信裕敏雅雍彩雅つ幸香祥玉美つ加智輝影星順惠日加代春悠貴悦正洋春美津玉松  
藤喜白勇雪子江珠介綾子子子子水睦子子石景子扇子翠子峰裕江苑舟風枝稍え子美子美雨扇子美夏都子華花泉子子子江苑江枝月  
香祥富正生澄明弘千八松硯春清高稻英潮菊榜墨竜広大縷高幕大東白梓大正華書安も上顧蕙高こ正澄千幸八A華誠八大洞榜  
月素貴華大春漢舟葉雲村水汀月崎毛峰音月翠花泉島雲縷崎張阪向扇江雲華祥游波く泉綠書真だ華春葉扇街I祥和生阪書翠  
鈴杉菅實新新嶋渋波七鹿佐佐境酒斎齊斎斎小小吳熊草日北北岸菅神川河加加小小岡大大大梅梅鷦字猪井伊板石生安  
木田原川條行谷谷條田々々野井藤藤藤藤林口谷刈下村村本野田元合藤藤寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺  
幸内与由世木木由幸内与由世木木由幸内与由世木木由幸内与由世木木由幸内与由世木木由幸内与由世木木由幸内与由世木木  
香睦昌仁三満祢志雅和知美早杏晃智豊紫眞房欣惠萩静典茱和春雅芳より久より久より久より久より久より久より久より久  
生子牛子美娘子子華美江芳子子子子苗昆功代子美蘭華美子舟茜代子仙敬菜芳よりよりよりよりよりよりよりよりよりよりよりより

如芳大京祥華松春硯菊墨玉大長書華上京大泉祥長 樹洞正青北桜洞雲大耕桜皓千麗大秀白も春た高大玉英東竜上葛  
選月蘭阪橋紫仙村汀水月緣川雲月徑仙泉橋阪会紫月 原書華蓮原草書溪阪雲草映葉澤阪水嶺く汀か真阪松峰実泉城  
205 線渡賀吉山茂富宮宮湊三増前前本堀細北松平除早濱蓮沼仁永中仲中土鳥豊戸富富戸戸渡樋鶴田田田高高瀬鈴  
名實邊綿田木野澤崎浦田田川多川川條木山尾坂田田木井村西西井銅崎村田富澤澤部子泉淵中中中山高橋木千代  
氏名略智子祐雪翠津草英溪美道佳幸栄和魯靜悦だは梅竹紗奎光良寛游惠弘希博瑞藻恵白藤紀雪亞良耶蒼靖子  
信子溪秋明花子子子子枝春子子子子は神雪永心堂明子澤子枝子勝舟翠影子雲風子幕希子衣子晴子  
芳秋玲子京